

# ライブセッション 日程表

第1日目 2020年7月11日(土)		第2日目 2020年7月12日(日)	
9:00	9:00 ~ 9:30 開会式	9:00 ~ 10:30 <b>シンポジウム 4</b> 「改定されたICH S5(R3) 医薬品の生殖発生毒性ガイドラインの要点を規制側の視点で読み解く」 座長：西沢紫乃、真木一茂	1. 医薬品生殖発生毒性ガイドライン改定の経緯と要点 真木一茂 2. 胚・胎児発生毒性試験における胎児毒性と安全域の考え方 関澤信一 3. 高用量設定根拠とそれらのプライオリティー 三ヶ島史人 4. ICH S5における発生毒性代替法の考え方 小島肇
10:00	9:30 ~ 11:00 <b>シンポジウム 1</b> 「出生前検査と遺伝カウンセリング -過去~現状~未来に向けて-」 座長：山中美智子、水野誠司	1. 日本での出生前検査の歴史と現状 山中美智子 2. 先天異常がある児の医療・療育における包括的支援 小児科医の立場から 吉橋博史 3. 出生前検査と人工妊娠中絶 -法学者の立場から- 本田まり 4. 社会・倫理的な視点から 柘植あづみ	10:30 ~ 12:30 <b>シンポジウム 5</b> 「発生毒性、遺伝毒性を有する医薬品の臨床使用における避妊に関する情報提供のあり方」 座長：鈴木直、藤原道夫
11:00	11:00 ~ 12:00 <b>特別講演</b> 「先天異常からDOHaDへ：鍵となる次世代継承エピジェネティクス」 大隅典子	1. 医薬品の生殖毒性に関するFDAの推奨ガイダンス 鈴木直 2. 非臨床安全性試験（生殖発生毒性） 小野寺博志 3. 医薬品の避妊に関わる臨床情報の国際比較 米村雅人 4. 卵子・胚・胎児への毒性と女性患者への対応 高井泰 5. 精子・精巣への毒性と男性患者への対応 西山博之 6. 医薬品の次世代に及ぼす影響とPMDAにおける承認審査及び安全対策上の課題 井口豊崇	
12:00			
13:00	12:30 ~ 13:00 総会		
13:00	13:00 ~ 13:30 奨励賞受賞講演	13:00 ~ 15:00 <b>教育シンポジウム 1</b> 「新型コロナウイルスに対して有効性が期待される医薬品の催奇形性を考える」 座長：林昌洋、下村和裕	1. 妊娠中のファビピラビル使用 中島研 2. 抗HIV薬の催奇形性を臨床研究から考える 梅澤理恵子 3. COVID-19に対するシクレソニドの効果と催奇形性 柴崎祥子 4. 抗インフルエンザ薬、抗HIV薬、吸入ステロイド薬の非臨床試験成績 山崎華子
14:00	14:00 ~ 15:30 <b>シンポジウム 2 60周年企画</b> 「医薬品による発生毒性被害の抑止に対する日本先天異常学会の貢献と未来」 座長：山田重人		
15:00	1. 医薬品の生殖発生毒性研究から見た先天異常学会の60年の歩み 塩田浩平 2. 医薬品の生殖発生毒性試験の進展への本学会の貢献 安田肇生 3. 医薬品の安全性研究を取り巻く変化と生殖発生毒性研究者育成に関する本学会への期待 堀本政夫 4. 医薬品の発生毒性評価における創薬研究者への期待 真木一茂	15:00 ~ 16:30 <b>シンポジウム 6</b> 「胎仔骨格異常の検出へのμCT活用事例からみる利点と課題」 座長：井関祥子、青木嘉信	1. μCTを活用した疾患モデルマウスの頭部形態の解析例 武智正樹 2. 生殖発生毒性試験へのμCT導入の可能性 桑形麻樹子 3. 胎児骨格検査におけるx線μCTの有用性と課題 伊原良 4. ラット胎児μCT画像を用いた人工知能による骨格自動診断の可能性 坂井祐子
16:00	15:30 ~ 17:30 <b>シンポジウム 3</b> 「発生学と毒性学の先端的融合」 座長：曾根秀子、井関祥子		
17:00	1. 頭蓋顎顔面形成のオーバービュー 井関祥子 2. レチノイン酸シグナルと顔面形成不全 黒坂寛 3. 顔面形成における増殖因子と環境因子の協調作用 三品裕司 4. 口蓋裂発生メカニズムの解明-口蓋突起癒合後の口蓋裂発生について- 井村英人	16:30 ~ 18:00 <b>ワークショップ</b> 「実験動物の発生異常用語におけるベルリンワークショップとJSTの交流と最近の活動」 座長：桑形麻樹子、千原和弘	1. Grey zoneのとらえ方の産業による違い 桑形麻樹子 2. The activities for harmonization of developmental toxicity terms at Berlin Workshops and current situation/prospect of the grey zone reduction activities Jochen Buschmann 3. 日本先天異常学会におけるGrey zone所見削減活動の総括と今後 佐藤旭 4. Grey zone用語の削減活動の経緯と現況 和泉祐子
18:00	18:00 閉会挨拶		

# オンデマンドセッション

7月11日(土)~8月10日(月)  
配信期間中いつでもご覧いただけます

## 教育講演 1 (60分)

座長：小崎健次郎

「ヒト疾患モデルとしてのノックアウトマウスの疾患表現型のオントロジー用語」

講演：吉木淳

## 教育講演 2 (60分)

「先天異常の発症メカニズムを探る —生殖器研究からのアプローチ—」

鈴木堅太郎

## 教育シンポジウム 2 (180分)

### 第20回生殖発生発達教育セミナー

- |                           |      |
|---------------------------|------|
| 1. 心血管系の発生                | 八代健太 |
| 2. 薬物の胎盤透過を規定するメカニズムとその影響 | 登美育俊 |
| 3. 妊娠中のウイルス感染と先天異常        |      |
| 1) — 基礎—                  | 川崎秀陽 |
| 2) — 臨床（風疹を中心として）—        | 奥田美加 |

## 一般演題 (ポスター掲示)

— 51演題 —